

はじめに、長い「お礼の言葉」となりますことをお許し願いたいと思います。

「戸隠WEEK」が終わった後、生徒たちはそれぞれお礼の手紙を書きました。

「苦労した分、野菜はおいしくなることを学びました。今後、教えてもらったことを生かして、家の手伝いとか、将来は農業もやってみたいです。」ピーマンの収穫と袋詰め体験をした生徒です。

「そして最後の日、子どもたちとお別れするのがとてもつらかったです。この4日間で子どもがもっと好きになりました。」保育園での体験最終日に、思わず涙してしまった生徒です。

「見た目は美しいとはいえませんが、わたしたちの感謝の気持ちと真心だけは本物ですので、しばらくは張り替えないでくださいませんか?」他地区で公民館の障子貼りをした生徒です。

生徒たちは戸隠に根付く産業や文化、そして、戸隠に生きる方々と直接触れ合ったこの「戸隠WEEK」を通して、学校の中だけでは決して学ぶことのできない、多くの事を学んでくれました。

「もぎたてのトマトを丸かじりして、甘くておいしかったことをこれからもずっと覚えていてほしいです。」「仕事をするの大変さと厳しさ、そして、楽しさを体で感じたと思います。4日間は長すぎてダメかなと心配しましたが、体験を終えてよかったと思います。」「殆ど行ったことのない地区へ出かけて、汗を流して地域の中で作業体験をできたことは、机の上では絶対に得られない貴重な体験でした。」保護者の方の声です。各家庭ではお忙しい中、アンケートに記入いただいたり、特に2年生は4日間に渡った送迎をしていただいたり、負担も大きかったと思います。ごくろうさまでした。

「組内には、今、小中学生が一人もいないので、近所の人たちも子どもの声が聞けたので喜んでいました。」「現役の高校生、大学生のアルバイトよりもずっと動いてくれました。さすが、戸隠の子ですね。」「こんな良い子が戸隠に残ってくれたらと戸隠の明るい未来が見えるような気がしました。(嫁に出ないでほしい)」体験を引き受けてくださった10件の農家、31件の事業所、18件の奉仕活動を提案していただいた地域の方々からの声です。仕事のやり方を一から教えることは大変なことです。自分で作業した方が効率が良かったこともあるのではないのでしょうか。感謝申し上げます。また、間に入ってご尽力いただいた、JA農業センター、戸隠地区商工会、青少年育成委員及び区長の皆様にも、厚く感謝申し上げます。

学校職員も苦労しました。受け入れ先との連絡・調整、挨拶の仕方や体験する心構えといった事前指導、当日の見回りや写真撮りと安全指導、体験学習のまとめやお礼の手紙の書き方指導等の事後指導。生徒を学校内に留め置き、インターネット等で調べさせ、あたたかも体験したように模造紙にまとめる方が、よっぽど楽だったと思います。

今、「家庭、地域、学校が連携して子どもを育てる」必要性が、そこかしこで叫ばれております。

「連携」とはお互いを理解しあい、それぞれが苦労をしたり、負担を分け合ったりしながら、一つの目的に向かって取り組むことを示します。どこかが苦労することを拒んだり、楽をしようと考えたりしたら、それは決して「連携」とは言えません。

それぞれが苦労をし、負担を分け合いながら、戸隠の子の成長を願って一体となって取り組んだ今回の「戸隠WEEK」は、まさに「家庭、地域、学校の連携」であったと、私は確信しております。

「1年は農業体験、2年は職場体験、3年は奉仕活動と体験する内容に段階があり、今の1年生が3年生になった時の姿が楽しみになりました。」「地域の中で暮らし、地域とのつながりなしには生活が成り立たないと思うのですが、その実感が薄くなってきている昨今、このような体験学習はとても意義あると思います。ぜひ、継続していただければと思っております。」保護者の方の声です。

今年からの取り組みであり、まだまだ、改善の余地はありますが、この「戸隠WEEK」が戸隠の子どもを育てていく、一つの柱の活動となり、また、伝統の一つとなっていくことを願って、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。